

葬儀に関わる僧侶の実態調査

2022年2月28日
経済産業大臣認可
全日本葬祭業協同組合連合会

調査実施概要

(1) 調査目的

- 今後の寺院、葬儀、僧侶の在り方の考察にあたり、葬儀に関わる僧侶と葬儀社との関わりについて、実態を把握することを目的とした

(2) 調査対象

- 全日本葬祭業協同組合連合会に加盟する葬儀事業者(1,269社)

(3) 調査期間

- 令和3年9月20日(火)～10月20日(木)

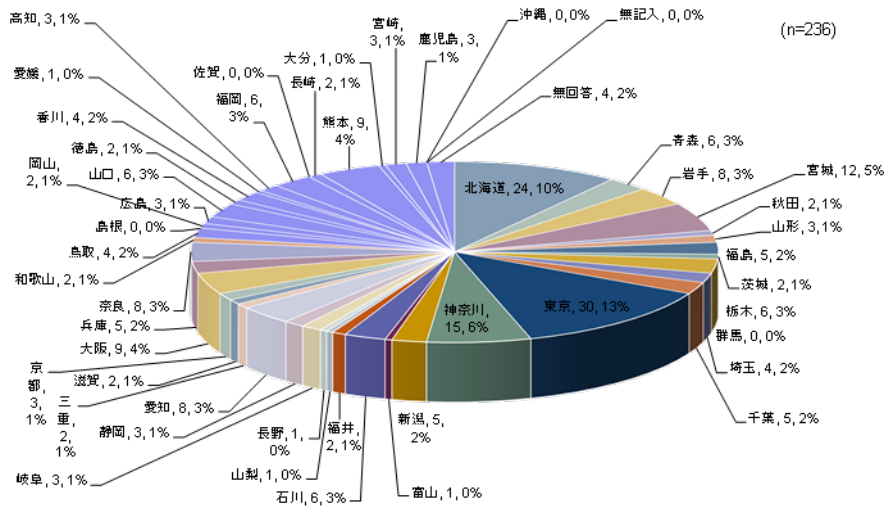
(4) 回収数

- 236件(回収率:18.6%)

問1: 回答葬儀社の所在地

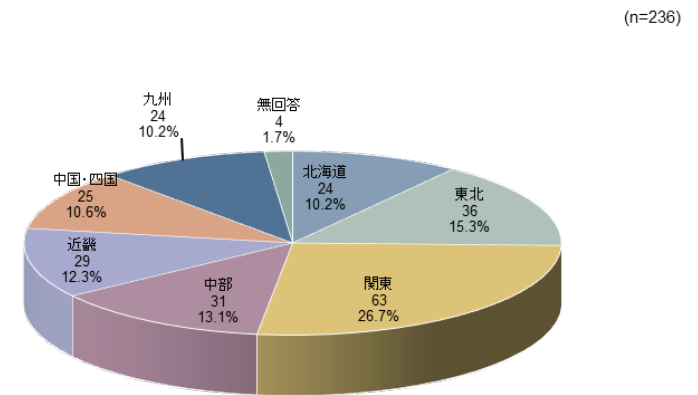
回答した事業所の所在地(都道府県)

- 「東京都」の割合が最も高く12.7%となっている。次いで、「北海道(10.2%)」、「神奈川(6.4%)」となっている。



回答した事業所の所在地(地域ブロック)

- 「関東」の割合が最も高く26.7%となっている。次いで、「東北(15.3%)」、「中部(13.1%)」となっている。



都道府県	回答社数	都道府県	回答社数	都道府県	回答社数	都道府県	回答社数
北海道	24	東京	30	滋賀	2	香川	4
青森	6	神奈川	15	京都	3	愛媛	1
岩手	8	新潟	5	大阪	9	高知	3
宮城	12	富山	1	兵庫	5	福岡	6
秋田	2	石川	6	奈良	8	佐賀	0
山形	3	福井	2	和歌山	2	長崎	2
福島	5	山梨	1	鳥取	4	熊本	9
茨城	2	長野	1	島根	0	大分	1
栃木	6	岐阜	3	岡山	2	宮崎	3
群馬	0	静岡	3	広島	3	鹿児島	3
千葉	5	愛知	8	山口	6	沖縄	0
		三重	2	徳島	2	(無記入)	4

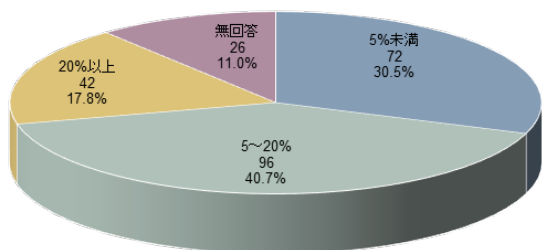
合計 236

問2: 僧侶が携わらなかった葬儀の割合

直近1年間で僧侶が携わらなかった葬儀の割合

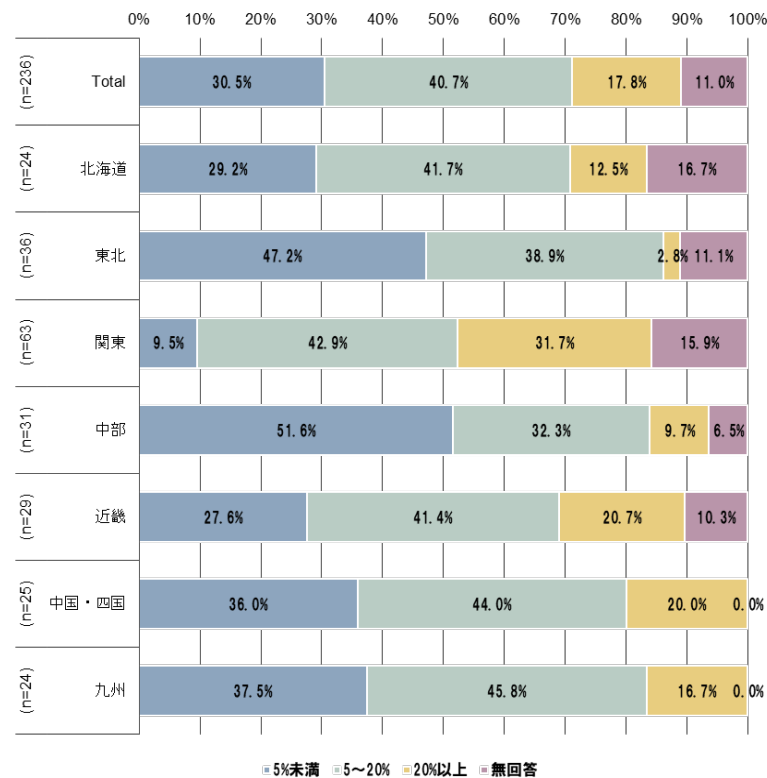
- 「5～20%」の割合が最も高く40.7%となっている。次いで、「5%未満(30.5%)」、「20%以上(17.8%)」となっている。

(n=236)



直近1年間で僧侶が携わらなかった葬儀の割合: 地域別

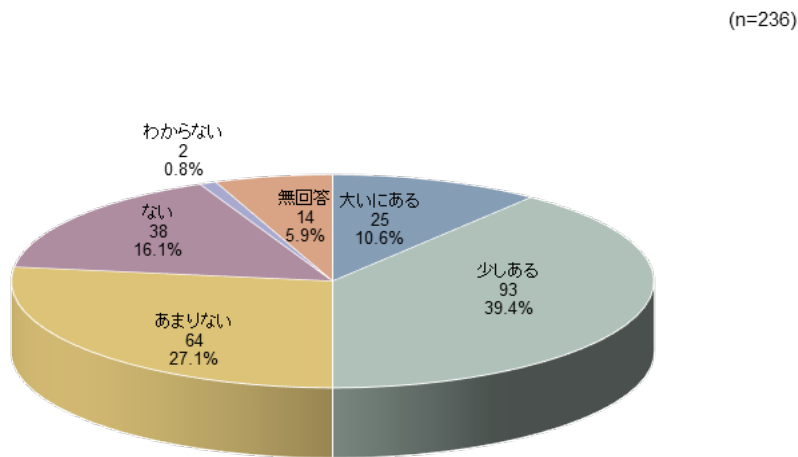
- 僧侶が携わらなかった葬儀の割合を地域別に見ると、関東地方では、「僧侶の携わらない葬儀の割合が20%以上」が31.7%と高くなっている。
- 一方、「僧侶の携わらない葬儀の割合が5%未満」は、中部(51.6%)、東北(47.2%)が高くなっている。



問3: 僧侶が失礼な態度である、遺族に寄り添いが無いと感じた状況

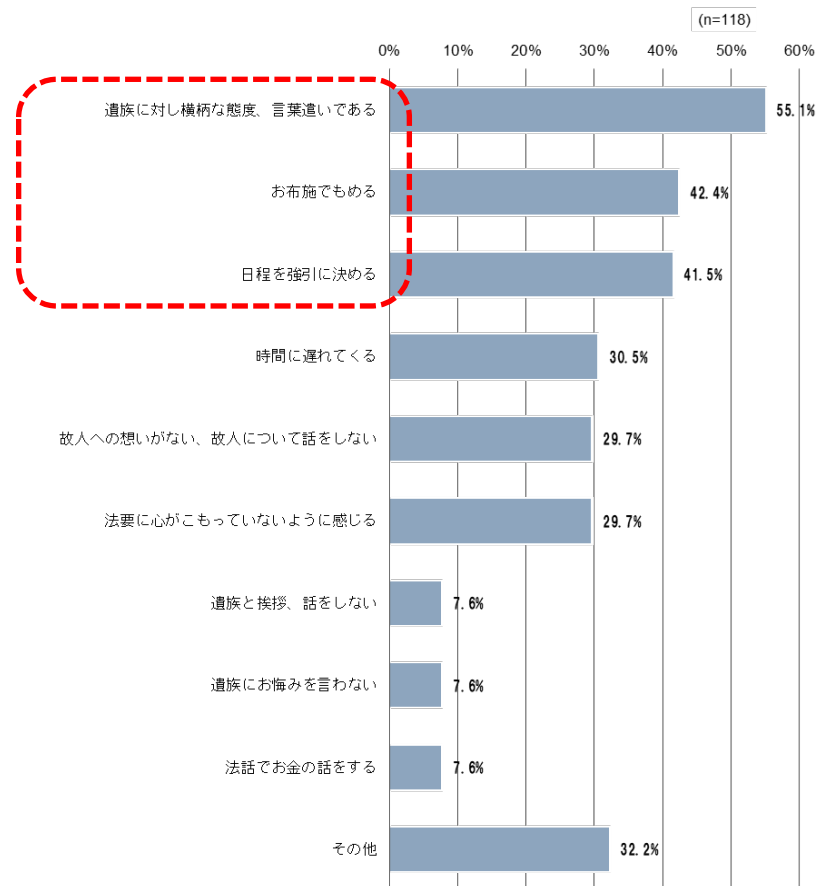
僧侶が失礼な態度である、遺族に寄り添いが無いと感じた状況

- 半数の50.0%が、僧侶が失礼な態度である、遺族に寄り添いが無いと感じた経験がある、となっている。



失礼な態度だと感じた状況・具体的内容

- 「遺族に対し横柄な態度、言葉遣いである」の割合が最も高く55.1%となっている。次いで、「お布施でもめる(42.4%)」、「日程を強引に決める(41.5%)」となっている。



問3:僧侶が失礼な態度である、遺族に寄り添いがなかったと感じた状況

失礼な態度だと感じた状況・具体的内容(自由回答)

～遺族への配慮のない寄り添い方

- 式に遅れてきたにもかかわらず「遅れて申し訳ありません」の一言もなく遺族も嫌な思いをした。
- 家族の考えや意向に耳を傾けない。理解しようとする姿勢があまり見られない。日程や形式について融通していただけない時もある。
- 遺族の雰囲気、空気感を感じてその家ごとで対応を変えられない。型通りの法話、会話、一方的な説法。
- ご遺族、スタッフに対し、こちら側がわからないようなことがあると小馬鹿にしたような物言いがあある。

～葬儀会社に対する高圧的な対応

- 日程について、火葬場が空いているにも関わらずご遺族の都合よりも自分の都合を優先する。
- 葬家にとって悲しみや関係者の対応等で大変な状況であるにも関わらず、日程調整や戒名、お布施などの事項を決定するのに、寺へ呼びつける方が多くいる。

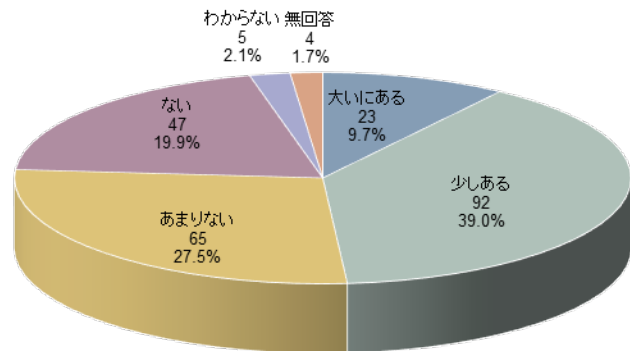
～僧侶本位な葬儀の執り行い

- 式で流すBGMも「これを流せ！」と指定する。
- 式場が自分のお寺ではないと機嫌が悪くなり、お花を使った祭壇を作ったこと、故人とのお別れで棺に花を入れることなどは葬儀社の金儲けのためにしている風習だ、と法話で葬儀社批判をする。
- お別れの時も大声を出して指示し、しめやかな雰囲気が作れずご遺族がかわいそうなくらい。

問4: 僧侶から理不尽な要求をされた経験

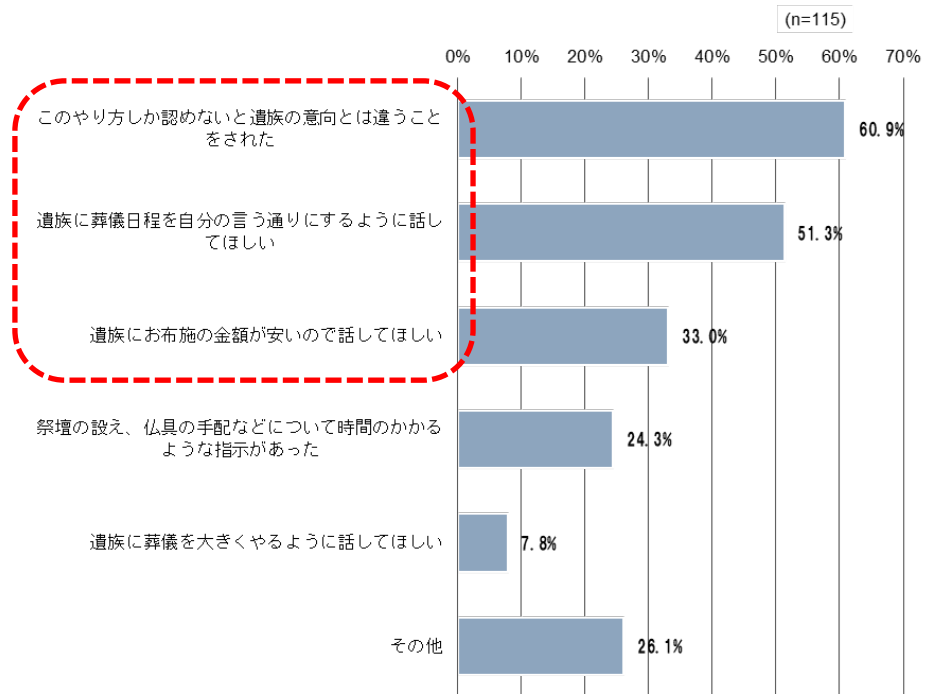
僧侶から理不尽な要求をされた経験

- 「少しある」の割合が最も高く39.0%となっている。「大いにある(9.7%)」と合わせると、半数近くの48.7%が僧侶から理不尽な要求をされた経験がある、となっている。



僧侶から理不尽な要求をされた経験・具体的内容

- 「このやり方しか認めないと遺族の意向とは違うことをされた」の割合が最も高く60.9%となっている。次いで、「遺族に葬儀日程を自分の言う通りにするように話してほしい(51.3%)」、「遺族にお布施の金額が安いので話してほしい(33.0%)」となっている。



問4:僧侶から理不尽な要求をされた経験

僧侶から理不尽な要求をされた経験(自由回答)

～僧侶事情ありきの要求

- 「僧侶の言う通りにしろ！」「僧侶を敬え！」「僧侶が用意した敬意項目に目を通し署名押印しろ！」と言ってくる。
- 遺族の立場に立って説明すると怒り、弊社を中傷する。檀家門徒へ弊社に依頼しないように伝え、僧侶の関係がある葬儀社へ頼むように強要する。
- 遺族の前では一日葬を承諾されるも、葬儀社に対しては一日葬になった経緯、誰から言い出したかなどを確認し、通夜を行うよう葬儀社に求める。
- 遺族の意向は聞かず、火葬式や一日葬を認めない。
- 9時から17時の間しかお寺は業務をしていないので、その間に全ての事柄を行ってほしいと言われた。

～僧侶からの過剰な請求や要望

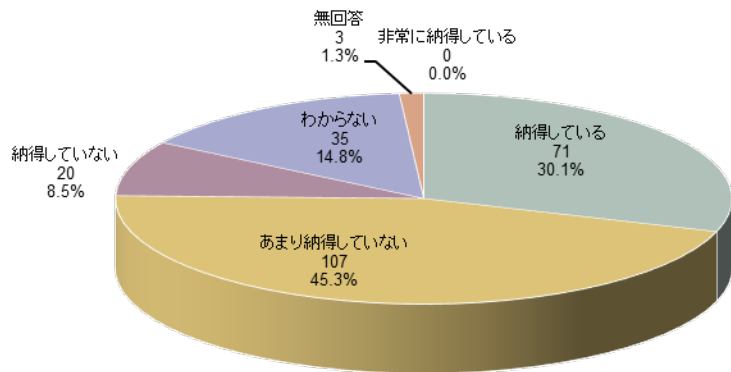
- 遺族からのお布施の金額が少ないため、葬儀社でその分負担しろと言われた。
- お布施は値引きできないので葬儀社に葬儀代を値引きしてもらってと僧侶に言われたとご遺族に言われた。
- 寺の指定葬儀社以外の葬儀社は祭壇の30%、料理・返礼品の30%をお礼してもらっているとされた。
- 通夜、葬儀の時に葬儀社に送迎を依頼してきて、また時間の指示まで言ってくるお寺様がいた。
- お車代を2名来たので倍にするよう、我々から言うように言われた。
- 10時～11時の葬儀で食事料を請求された。
- お布施は中身が重要なので、封は簡単に開けられるものにするように言われた。

問5: 遺族側のお布施の納得感

遺族側のお布施の納得感

- 「あまり納得していない」の割合が最も高く45.3%となっている。「納得していない(8.5%)」と合わせると、半数以上の53.8%がお布施の金額に納得していないことが分かる。
- 「非常に納得している」との回答は、0.0%となっている。

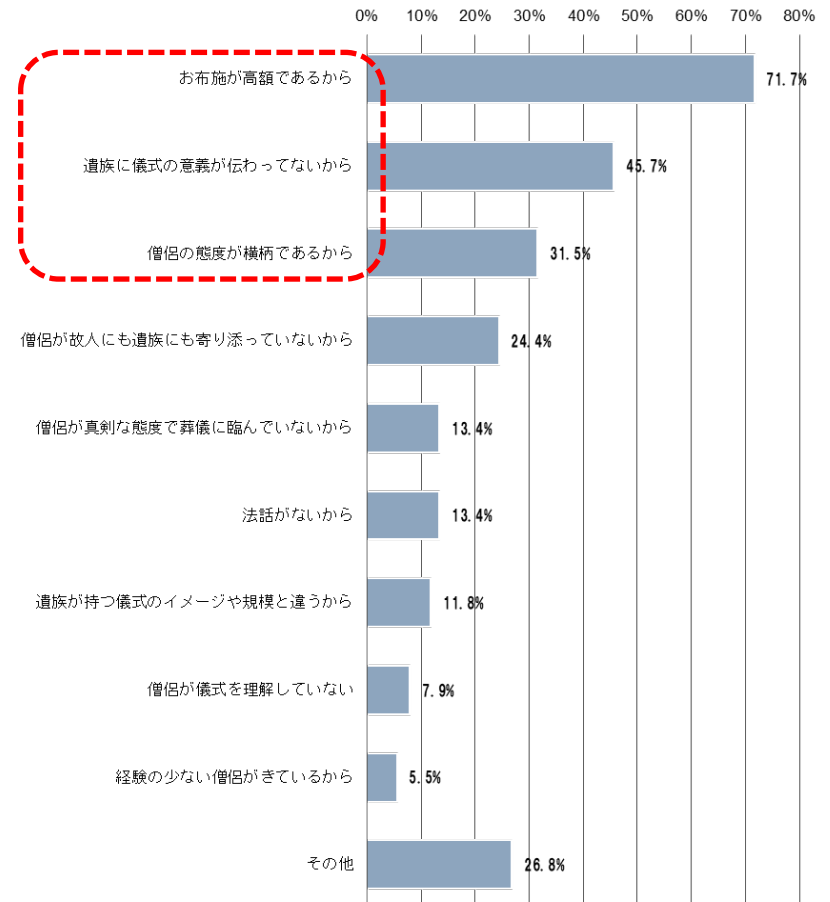
(n=236)



遺族側のお布施の納得感・具体的内容

- 「お布施が高額であるから」の割合が最も高く71.7%となっている。次いで、「遺族に儀式の意義が伝わってないから(45.7%)」、「僧侶の態度が横柄であるから(31.5%)」となっている。

(n=127)



問5: 遺族側のお布施の納得感

遺族側のお布施の納得感(自由回答)

～不透明なお布施の相場観、不可解さ

- 「寺院が定めた布施はこの通りだから従え！」と、経済的に苦しい遺族を思いやることなく強要する場合もある。
- お布施の内容が不透明なので高く感じる。読経料いくら、戒名いくらと説明があってもよいと思う。
- 高い、安い、といった相場がわからない。
- 近年は、葬儀に費用をかけたがらない。ただ、お布施は、まだ、だいたい言われるがままに支払っているように感じる。
- お布施は言い値であり、内容に関係なく請求される。内容によっては、葬儀に宗教者が必要な意味がわからない時がある。
- お布施と読経する時間及びその他葬儀に対して費用対効果が合わない。
- お布施、儀式、菩提寺の意味など普段から説明していない。
- 僧侶が相手の家の財力をみてお布施の額を決める。

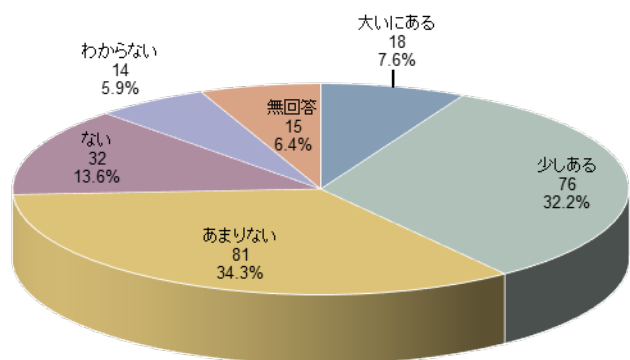
～葬儀の在り方について

- 遺族はお経を唱えていただくため、としか思っていない。
- お布施の額が一方的に僧侶から提示されることなど、普段、お寺と付き合いのない方々が喪主になると納得してもらえないことがある。
- お布施の金額について問合せがかなり多い。遺族と菩提寺のコミュニケーションが不足しているように見える。
- お布施の相場とはこのくらいと理解している遺族は納得して払う。相場を全く理解していない方は、やはり「高い」と感じる。
- 本当の意味で遺族に近づく必要があると思う。心が癒されていない家族とどうあるべきかと思う。それ故にお布施が高額と感じている方(特に若年層)が多い。墓じまいをしたい、と相談をされることが多くなった。
- お布施が高額であるとは思わないが、何のためのお金なのか理解させていない時が見受けられる。
- 今の時世を考えていないお布施を要求する僧侶が多い。
- 地域の相場と言われて仕方なくお布施を出している。また50代前半以下の喪主世代は、儀式含めて約3日間の正味3時間から4時間で高額になることに対して理解できていない。

問6: 僧侶として相応しくない、社会的常識がないと思われる行動や態度をみた経験

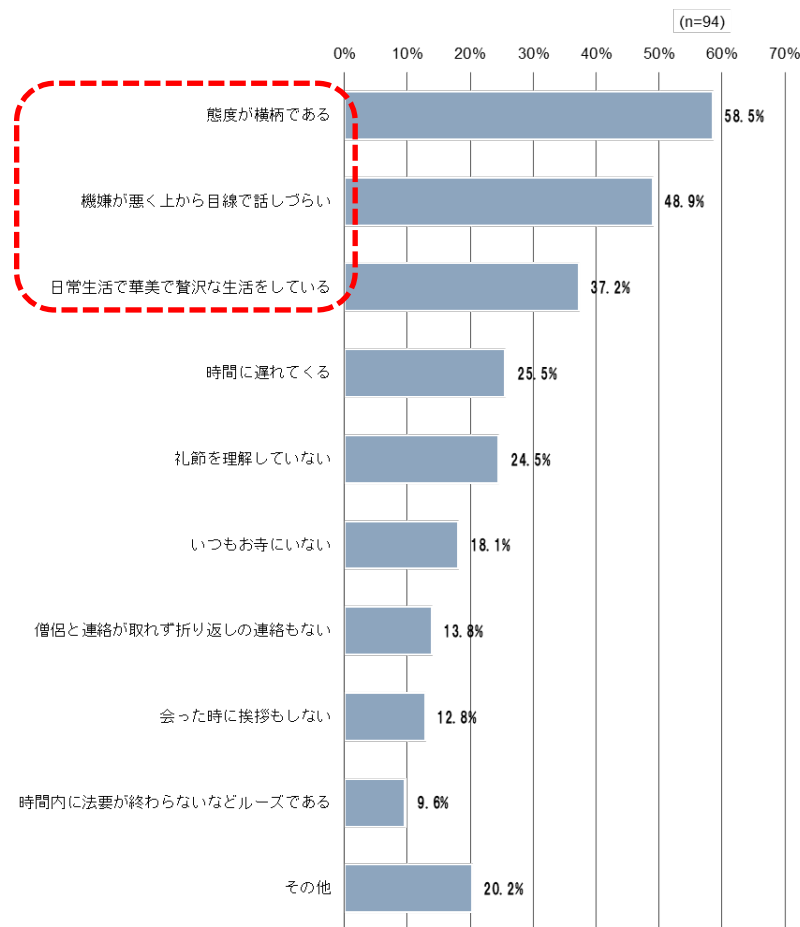
僧侶として相応しくない行動や態度をみた経験

- 「あまりない」の割合が最も高く34.3%となっている。次いで、「少しある(32.2%)」、「ない(13.6%)」となっている。



僧侶として相応しくないと感じた行動や態度の具体的な内容

- 「態度が横柄である」の割合が最も高く58.5%となっている。次いで、「機嫌が悪く上から目線で話しぶらい(48.9%)」、「日常生活で華美で贅沢な生活をしている(37.2%)」となっている。



問6: 僧侶として相応しくない、社会的常識がないと思われる行動や態度をみた経験

僧侶として相応しくないと感じた行動や態度(自由回答)

～檀家門徒や葬家、葬儀社への態度

- 檀家門徒にもてはやされ、住職が一番偉いという態度。
- 失礼ながら葬儀社に対しての横柄で態度が悪いことがある。「葬儀会社へ葬儀をしに来てやっている」という態度がみえる。
- 来て早々、お金の話、日程の話、その後やっと枕経をする。法話や会話を全くしない。地域に根付いておらず、ただの葬式坊主になっている。
- お布施の金額によって、葬儀日しか来ない時がある。通夜は僧侶不在である。

～飲酒・喫煙のマナー

- 飲み屋でよく泥酔しているのを見かける。
- 遺族の自宅等で喫煙する。
- 火葬場で飲酒され、遺族と話しの行き違いで暴力を振るわれ大変だったことがある。
- 法事のお勤め時、日本酒をかなり飲んでいて、一定のマナーは必要である。

～贅沢で華やかな生活

- 高級外車を数台所有しており、檀家門徒に指摘されていた。
- よく海外旅行に行ったり、それ以外も派手な生活をおくっている。
- 一般家庭よりかなり贅沢に過ごしている。(ゴルフ、会食、高級車)
- 私生活は華美だが、本堂や墓地などが整備、メンテナンスされていない。

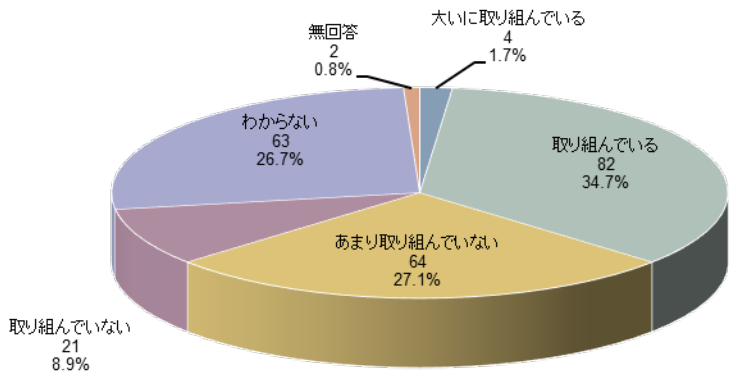
～社会生活における世間との感覚の相違

- 一般社会人の常識欠如、立場をわきまえていない。非課税の意味を全く理解していない。
- 支払いがルーズ。陰口などを言う。感情の起伏がある。
- 本堂の中が清潔でない。
- 時間にルーズ。いつも30分ほど遅刻してくる。

問7:僧侶の社会貢献、奉仕活動への取り組み

僧侶の社会貢献、奉仕活動への取り組み

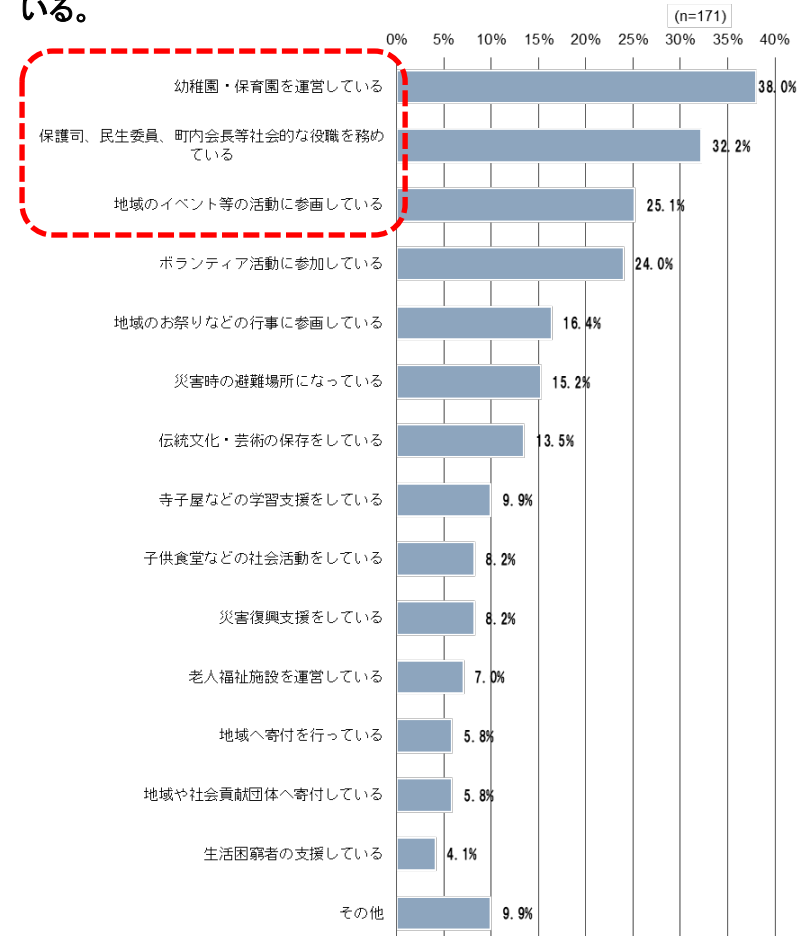
- 「取り組んでいる」の割合が最も高く34.7%となっている。次いで、「あまり取り組んでいない(27.1%)」、「わからない(26.7%)」となっている。



(n=236)

僧侶の社会貢献、奉仕活動への取り組み

- 「幼稚園・保育園を運営している」の割合が最も高く38.0%となっている。次いで、「保護司、民生委員、町内会長等社会的な役職を務めている(32.2%)」、「地域のイベント等の活動に参画している(25.1%)」となっている。



問7:僧侶の社会貢献、奉仕活動への取り組み

僧侶の社会貢献、奉仕活動への取り組み(自由回答)

～取り組んでいる

- 寺院にて月一回「カレーの日」を開催し、食育を行っている。町内に9ヶ寺の寺が存在するが、上記活動を1ヶ寺が行っていて、社会的な役職を務めているのが1ヶ寺、他の7寺院は社会的な活動に参画していない。
- 浄土宗のお寺様で生活困窮者の方のご遺骨や引き取り手のないご遺骨を合同合葬していただいている。

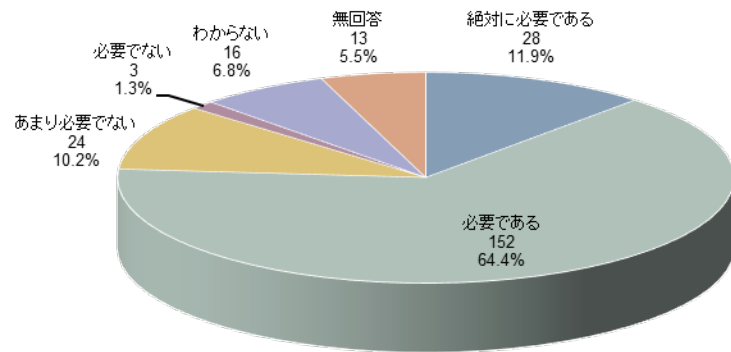
～取り組んでいない

- 幼稚園・保育園の運営は多々あるが、ボランティアや他の活動に積極的に取り組んでいる姿を見たことが無い。
- 祭りは神事と言われ全て無視している。
- 一部のお寺がいろいろなことに取り組んでいるが、大抵の寺は無関係と思っている人が多い。取り組んでいる寺院は少数。
- 過去には、住職が保護司などの役を受けられる場合が多くあったように思う。最近では、地域に対し目立った活動をされていないように感じる。特にRC(ロータリークラブ)・LC(ライオンズクラブ)・JC(日本青年会議所)等の団体に入会されても長続きしなくて退会される方が多い。

問8: 今後の葬儀に際しての僧侶の必要性

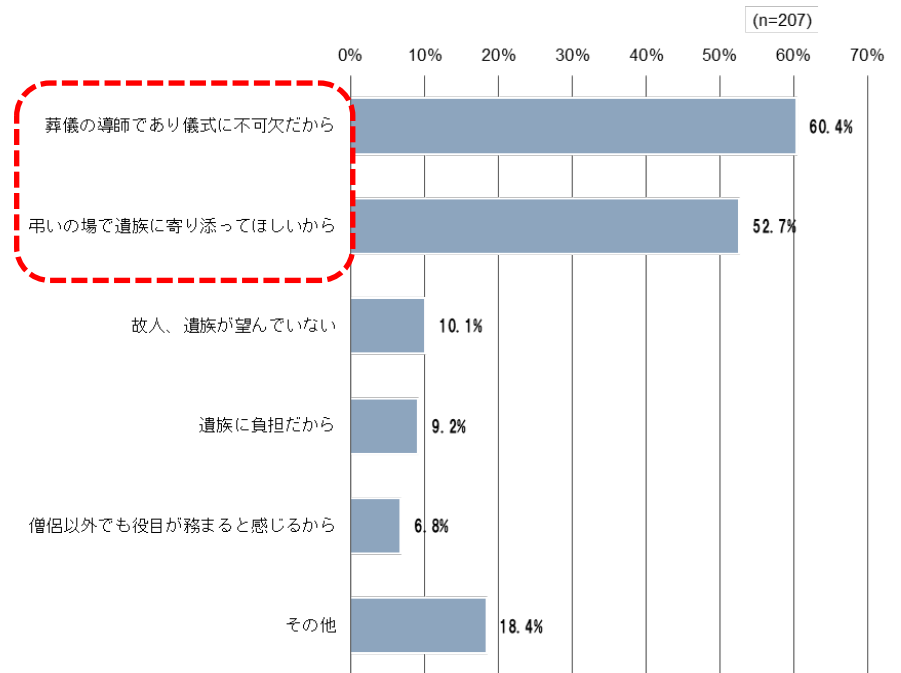
今後の葬儀に際しての僧侶の必要性

- 「必要である」の割合が最も高く64.4%となっている。次いで、「絶対に必要である(11.9%)」、「あまり必要でない(10.2%)」となっている。



今後の葬儀に際して僧侶が必要な理由

- 「葬儀の導師であり儀式に不可欠だから」の割合が最も高く60.4%となっている。次いで、「弔いの場で遺族に寄り添ってほしいから(52.7%)」となっている。



問8: 今後の葬儀に際しての僧侶の必要性

今後の葬儀に際しての僧侶の必要性(自由回答)

～必要である

- 特定の菩提寺が無い方でも信じる心のある方、僧侶がいてくれることで安心していただけると考えます。実際そのような印象を受けます。
- 亡くなった人の遺族に寄り添い、心のケアをするには必要不可欠な存在であるべきだが、日常で寄り添いきい環境になってきたことが僧侶離れに拍車がかかっていると思う。今一度。存在意義を示すことが必要だと思う。
- 菩提寺がなくとも紹介してほしいというニーズも多く、葬儀の儀式としてはまだ必要に感じる。しかし、離檀を考えている方も多く、それは住職との関係や家族構成の複雑化、少子化が強く影響していると思う。
- 僧侶も高齢化して檀家門徒の要望に応えられない事柄が増えてきている。今後、関わり方やコミュニケーションの施策を僧侶自身が考え、檀家門徒と話し合いなどをする関係を構築していかなければ、いわゆる「寺離れ・檀家門徒離れ」が加速していくと思う。
- 葬儀以外でもお金を取りすぎている。皆が文句を言いながら、しぶしぶという様子。
- 信仰的なものではなく、日本式葬儀の文化。
- 宗教というよりも日本の文化として葬送という文化を守ってほしい。日本ならではの互助、思いやりも含まれる。そのためには、僧侶の役目も必要な部分があると思う。

～必要ではない

- 後々のお付き合いが嫌と感じている方々が多い。
- 読経するだけならCDでよい。お布施の金額に見合っていない。
- 代替のシステムや風習、慣習があるならそれでもいい。

問9: 葬儀を行うにあたり信頼できる僧侶の有無とその理由(自由回答)

信頼できる僧侶の有無とその理由(自由回答)

～信頼できる僧侶

- 葬儀事以外にも相談できる。
- お布施などの金額を遺族の希望で相談できる。気楽に相談できる僧侶がやはり信頼できると思う。
- 葬儀の形式、日程、お布施、今後の供養等ご家族の意向を最優先に考えていて、お寺の考え方ではなくご家族に寄り添う姿がある。
- 宗教的な教えのみならずご遺族の心のケア等もしっかりとされている。
- 式の時間も厳守して下さる。
- 厳格な式の中にも柔らかい言葉を使って法話をしてくれる。
- 葬儀後の法事等においても適切なアドバイスをして下さる。
- 檀家門徒の枠にとらわれず親身になって周りの方々と接している。
- 教区のまとまり、繋がりがそれぞれある。足並みがそれぞれ揃っているなので、ある程度流れなど把握でき、葬儀、法要など遺族へアドバイスがしやすい。
- 地域で宗派ごとに連携してほぼ同じ内容で葬儀を行ってくれる。
- 現在の立ち位置を理解して今後の展望をしっかり考えている。

問9: 葬儀を行うにあたり信頼できる僧侶の有無とその理由(自由回答)

信頼できる僧侶の有無とその理由(自由回答)

～信頼できない僧侶

- 高圧的(寄り添いが無い)。自身を「非常に偉い人である」との勘違いが全ての言動に出る。
- 作法や勝手がわからない遺族の質問や希望(常識を外れたものもある)を伝えると、怒ったりする。
- 檀家門徒や葬儀社に支えられていることを理解していない。
- 火葬式や一日葬を全く認めない。喪家の経済的な問題を考慮しない。
- 仏教に対して知識が無い。各寺の決まりが宗派内でもまとまっていない。
- 枕経もなく、葬儀の打合せも5分程度で終わる。通夜、葬儀も淡々と進み、故人が火葬炉に収まると「今後の法要や納骨については、後日、お寺に来なさい」と一言残して帰る。寄り添うことをしていない。
- 檀家門徒に対して自分の思うようにならない場合、それを一般に対して発するような文書を配付する。
- 地域に住まいのないお寺(住職や家族)は地域を理解せず一方的にお布施の話をする。
- お布施が高額で払えないと相談すると四十九日、一周忌とローンのように分けて払えと言う。
- 霊園や納骨堂などを運営し、経営に行き詰まる僧侶がいるなど、利益重視な面がある。

問10:僧侶への意見等(自由回答)

僧侶への意見等(自由回答)

～文化としての継承

- 所属する宗教の内容を分かりやすく説明する機会を設けて欲しい。
- 現状のままだと寺院を含めて葬送文化が廃れる。インターネット等の紹介僧侶の方が常識的である。
- 葬儀文化を守ることは、生きること、いのちの大切を感じ、守ることだと思う。
- 時代と共に葬儀や儀礼文化は少しずつ変化している。しかし、便宜上略式にしていくことで、本来の意味を感じることがなくなっていると実感している。直葬や一日葬を行うのではなく、葬儀の意味を伝えるよう葬儀社としては一生懸命に努力している。
- 亡くなった人の弔い方、心持ちが軽くなっていくようでは、今まで築いてきた日本の良い道德感を失っていくのではないかと危惧している。日本文化の破壊は何としても止めてほしい。
- 一日葬など本来のものではない形が近年出てきており、改めて僧侶の方々からも本来の葬儀の形、葬儀の意味、時代と共に変化してきた部分などをご遺族に伝えてほしいと思う。

～世間との感覚の乖離

- 人口が減っていく地方の寺は維持できずなくなっていくことになる。
- もう少し檀家門徒のために努力、時代の流れに対応した考え方の方がよい。悪いお寺は昔から「お金」が好きみたいです。
- 自分の宗派の考え方をただ押し付けているだけのお坊さんがいる。
- 全くホスピタリティーな考え方がないお坊さんもいる。(お寺の維持のことしか考えていない。)尊敬できるお坊さんは数える程度しかいない。大半の方は俗人化しているように感じる。
- 将来的にお寺の格の差異にかかわらず一定の定額制にして欲しい。(宗首、宗派別に。)
- 経済的に苦しい喪家などに快く安価な読経料で受けてあげて欲しい。世の中にはお経をあげてやりたいけど、それが経済的に無理な人が沢山います。
- 近年遺族の多種多様なニーズが多い。柔軟に対応して下さる、または、理解を示して下さる僧侶が増えて欲しい。

問10:僧侶への意見等(自由回答)

僧侶への意見等(自由回答)

～檀家門徒等への教育(葬儀についての理解)

- 俗世の方々の宗教心が希薄化しているのは葬儀社の責任なのか疑問である。
- 日常的に檀家門徒との付き合いを行い、その際に葬儀について話をすることが重要。
- 一般人と僧侶に距離感がある日頃より宗教者としての活動をしていかないとお葬式だけの寺というイメージがなくなる。
- 今、家族の中で仏教や先祖を尊ぶお話しができる人がいない。残念だが学校や寺院も同様。寺を守るためには年間の経費を檀家や門徒、そして国にも認知していただく必要がある。
- 檀家門徒の方に、なぜ弔うという儀式が必要なのかをよりわかりやすくお話しをして欲しい。また、触れ合う機会を増やして欲しい。
- 何故、お葬式をするのか、しなければならぬのか通夜の席等でお話しをしてもらいたい。
- 檀家門徒と菩提寺のコミュニケーション不足が感じられる。葬儀になって初めて話したとか、その住職の考え等を葬儀社が橋渡しとなっていることも多い。

問10:僧侶への意見等(自由回答)

僧侶への意見等(自由回答)

～宗教者への教育

- 個々の寺院、僧侶のレベルアップを図ることはできないか、全日本仏教会がもっと強い発信をすべきだと思う。
- 経済状況を理解したお布施の金額と生活水準を心掛けていただきたい。生活保護世帯が増える中、高額なお布施を請求する寺院もあるようです。
- 宗教者に対して改善を促せる機関を作って欲しい。一部の悪い人々による被害者を減らしてほしい。
- 今の寺院はビジネスでしている。僧職のあり方をもう一度問うべき。特に若いお坊さんに多いように思う。
- 僧侶は意見するのではなく、それぞれの遺族の立場に立って、まずは話を聞いて欲しい。
- 寺も一般社会の会社運営と同様の考えを持っていただくことが必要だと思う。昨今、我々一般市民が持つ常識とかけ離れた言動をする僧侶の方を多く散見する。その積み重ねが寺離れ、宗教離れを引き起こす要因になっていると思う。特に檀家門徒さんは、ご先祖様が眠っている世話になっていること言いたいとも言えず、グツとこらえていることを宗教者は理解して欲しい。
- 宗教法人ごとに方針があると思うが、競争原理が働かないことでの弊害があまりにも多く見受けられる。もっと檀家門徒の取り合いが起こっても不思議ではないと思う。これからの世の中に選ばれるような宗教法人運営に期待する。
- 住職の息子さん等のととても若い宗教者の法話はしない方がよいと感じる時があります。話ごとに目的化され心がこもってないし、全くもって説得力がないと感じる時が時々あります。
- 地方の寺院はもう少し当家に対して柔軟に寄り添う姿勢が必要であると思う。
- 全部ではありませんが、世襲制は考えるべきだと思う。
- 僧侶の良い悪いは、その人の人間性だと感じる。今更、人間教育をやり直すことは難しいので、小さい頃からの教育だと思う。悪い寺院は檀家門徒離れが進み、淘汰されるのではないのでしょうか。